

編集後記

ERCP が大井、高木らによって開発されて以来 13 年、その発展ぶりを樹木の発育に例えれば、幹の順調な成長もさることながら、次々と立派な枝を張り出して見事な大木になりつつある。前号が ERCP という幹の成長の記録とするならば本号はその幹から派生した枝の発育ぶりの記録と言えよう。

ERCP 開発後数年のうちに内視鏡的膵液・胆汁採取法、内視鏡的乳頭切開術、胆道末端の内視鏡的機能検査法（感圧素子法・筋電図法）、胆・膵管内視鏡検査法などの検討が次々と開始され、その後また数年のうちに内視鏡的胆・膵管内圧測定法、内視鏡的胆道ドレナージ法の検討が始められたが、その発展ぶりは真に目をみはるものがある。乳頭切開術、胆道ドレナージ法のごとく改良を重ねて、既に臨床の場で重用されているものもあるし、膵液・胆汁採取法、胆道末端機能検査法、胆・膵管内圧測定法、胆・膵管内視鏡検査法のごとく臨床応用を目指して研究中のものもある。これらのほとんどのものの開発がわが国で着手されたことは誇りとしてよいであろう。

本特集の執筆者は最初からその開発にたずさわリ、今も第一線でその改良・発展に取り組んでいる人ばかりである。ERCP 発展の道標として有用な冊子ができあがったと考えている。

今後、既存のものは一層 refine され、更にまた新しい枝の発生が期待される。これほどの大木の苗木を作った大井・高木の妻と共に、その土壌を用意した先人の努力に改めて敬服する次第である。

＜原田 英雄＞

＜編集＞ 早期胃癌研究会